

③ 令和元年6月18日山形県沖の地震における 鶴岡市三瀬地区の避難行動調査結果について

熊谷 誠¹ 村山 良之²

1.岩手大学地域防災研究センター、 2.山形大学教育実践研究科

概要

令和元年6月18日22時22分に山形県沖を震源とするM6.7の地震が発生し、新潟県村上市で震度6強、山形県鶴岡市で震度6弱を記録した。震源に近い地域では緊急地震速報の発報よりも早く強震動が到達し、東北北陸の5県で44名の負傷者が、新潟県、山形県の2県で半壊36棟、一部破損1,244棟の建物被害が生じた。また、この地震では地震発生から12分後に10cmの津波の到達が観測されている。新潟県、山形県の沿岸部では住民の津波避難が生じたが、地震後の各研究機関が行った調査から、夜間の避難や安否確認、避難先での受け入れについての課題などが明らかになっている。

筆者らも地震後の住民の避難について調査を行うなかで、地元自治会が行った避難行動調査の取りまとめにも協力してきた。本報告は、山形県鶴岡市の沿岸部に位置する三瀬地区の避難行動調査の結果について報告する。

1.地震の震度分布と調査対象地

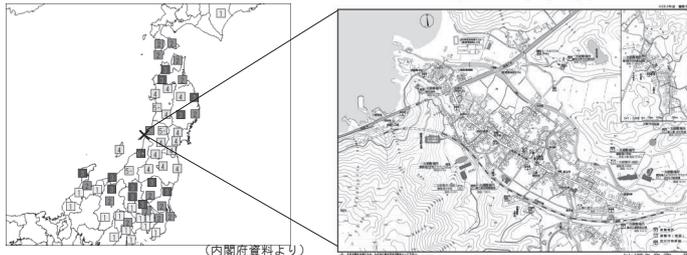
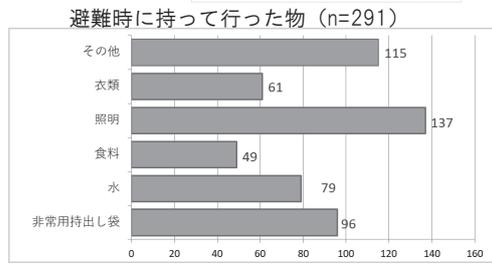
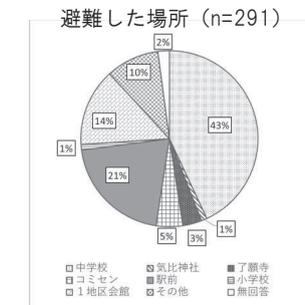
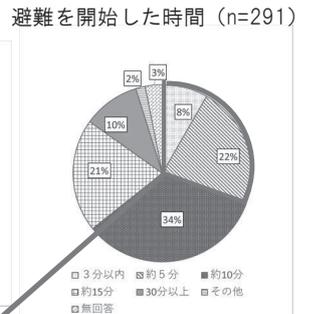
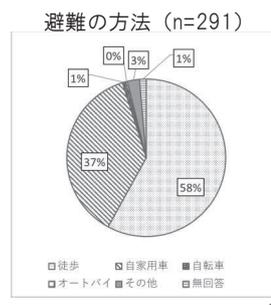
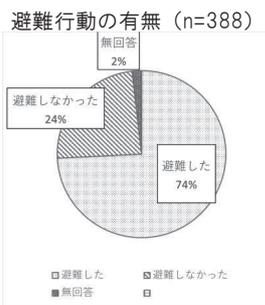
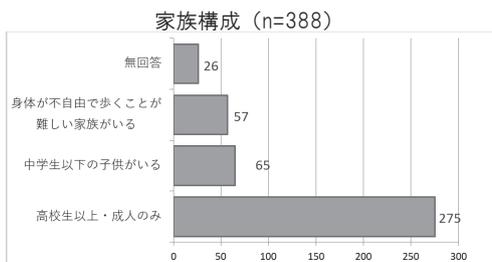
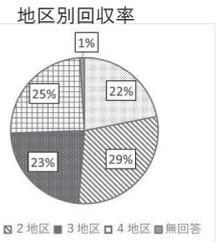


図1.震央と震度分布図

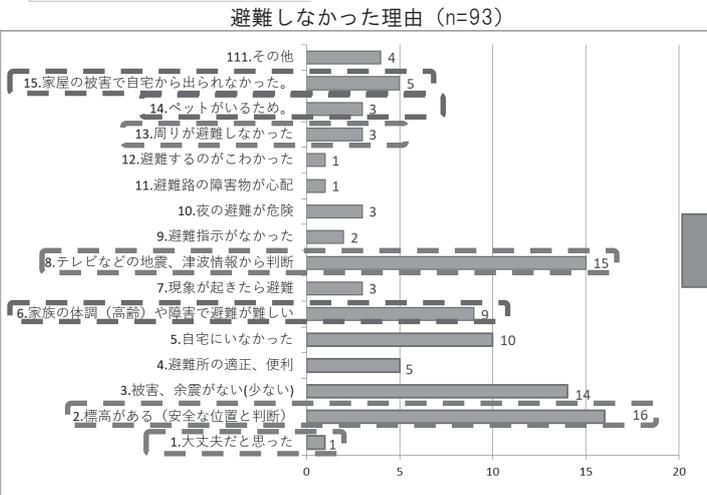
図2.鶴岡市三瀬地区

2.調査の概要

調査実施期間：令和元年6月25～7月18日
 調査方法：自記式調査票
 自治会会長による配布回収
 調査対象：三瀬地区全世帯
 (1～4地区) 444世帯
 回収数：388件 (回収率87%)



津波の到達予想時間より前に避難を開始した人は全体の約3割



“自分は大丈夫！“情報をみて(聞いて)から、”みんなが避難しないから”という自分なりの判断や“思い込み”により、避難の見送りなどが起きている模様。また、日本海側の津波の海岸部への到達は太平洋側よりも早く(アンケートの三瀬地区では8分)、テレビ等の津波情報を待つ間に貴重な避難時間を失うことに。

一方で、避難したくても「家屋被害で自宅から出られなかった」、「ペットがいるから」、「家族の体調や障害で避難が難しい」など、それぞれの理由で避難できなかった人たちがいた。